

吉田寮「在寮期限」執行を粉碎しよ！ 総長・学生部長を追いつめろ！

# 全学団交・自治反戦大連合

## 1. 吉田寮「在寮期限」執行を粉碎しよ！

吉田寮「在寮期限」＝'86年3月31日が目前にせまっている。京大当局は「在期」実質化（職員配陣：入寮募集停止・寄生強制退け出し＝明度レバーリン申請）を着々と準備する一方、「在期」執行スローグムを强行決定せんとしている。

これに対する対抗・学生の反撃が展開されつつある。スローグム決定が十分予想された13日の学生部委員会の直前、我々は吉田寮自治会とともに、多くの学生の注目の中、朝尾学生部長への大衆的追及を貫徹した。この追及の中で、「現時点で吉田寮廃止の裁決は行わない」旨、学生部長に確認せている。また、14日には、70名を超える教養部生の結集によって、教養部団交実行委員会（C団交実）結成集会が克ち取られている。

この斗争を全学へと燃え広がらせていくなければならぬ。」「在期」執行にあけた、全学的コンセンサス形成を粉碎し、総長・学生部長の「吉田寮廃止」裁定を阻止していくために、全ての学友が全学団交・追及戦に立ち上からむる呼びかけ！

## 2. 自治寮つぶしを許さず、斗う自治を全学に発展させよう！

文部省官への政治圧力に端的に表われているように'70年代を通じて京大当局は室内管理機構の再編を進め、総長・文部省官僚専決体制を強めてきた。そして、'81年以降、学生自治運動の解体・その要として自治寮廃寮化攻撃に取り組み、「82年12月吉田寮「在期」評議会において強行決定したのである。我々はこの決定を粉碎するために、断罪・時計台に突入り、座り込み斗争を斗い抜いた。以降、学生部長・評議員との団交において、「決定したことを自己批判を克ち取ってきた。しかし、「在期」粉碎の斗争を十分に持続しえず、今、まさに「在期」実質化が進行されんとする局面を迎えている。

二の廢寮化攻撃—室内治安管理強化の一連の進展の中で、京大当局は「21世紀における、京大全面再編における、将来言語検討委員会設置し、2度の答申を出させている。二の中でも、関西学研都市への一部移転、「国際化」「日本学研究」と日本帝国主義の侵略・排外主義を支える国策研究の推進が明らかに打ち出されている。

学友諸君／自治寮つぶしとの斗争は、きわめて重要である。自治寮つぶしは、学生の自主的創造的活動にかけられた最大の攻撃であるばかりか、当局はその先に、侵略・排外主義への教育・研究の動員を展望している。今こそ、吉田寮自治会に連帯し、自治破壊をくい止め、二の斗争の中から、斗う自治を全学に発展させ、京大再編を撃つ全学的陣型を構築していく！

## 3. C団交からの提起に対する我々の原則的态度

本年一月、教養部斗争委員会（C団交）の諸君から、「在寮期限粉碎」を課題に、教養部代議員大会と教養部ストライキと共に示した「C団交」の旨の提起が我々になされた。

吉田寮「在期」粉碎斗争におけるC団交諸君との共斗に関する我々の原則的态度は以下の通りである。

オートニ、我々は、寮斗争の主体は寮自治会であり、「在寮期限」の粉碎とは斗う自治寮の防衛であると考えている。従って我々は、吉田寮自治会と連帯して斗う。確かに、現在、吉田寮自治会は、当局の廢寮化攻撃の重圧の下で、自治防衛を鮮明に打ち出しえていはない。我々は、かかる自治防衛の觀点が後退化した状況を当局の重圧を打ち碎く、全学的な運動の高揚と、寮自治会との同志的批判・討論闘争の繼續によって克服していく決意である。←ウラハ→

# 全学団交・自治反戦大連合

しかし、C三諸君のビラは「(昨年)今月東生大会での裏切り路線のクーデター的決定」と大衆的原則的に打された自治運営をほりくずしている。また、寮自治会執行部に「二のふたば(….)輩を全學の怒りで粉碎せよ!」「打倒せよ!」と言明している。これは方針への批判ではなく、敵対の宣言に他ならない。

よってかかる見解の撤回なくして「在期粉碎」斗争における我々とC三との共斗はありえないと考える。

サニに、C代大一ストを唯一の方針と位置づけるC三に付し、我々は、教養部の大衆運動を全學運動・全學団交・追尾戦の一環として位置づける。したが、Z、代大における議案は、相互の独立性を保ち、それを持出し、代大の場で斗わせること。

サ三に、代大東の運営は、全て公開の大衆的な場において云うこと。

我々は、これを原則としてC三との共斗に関する討論へとした。まずサ一の点において、C三の諸君の見解の撤回がむなったためサニ・サ三の点については論議することなく、共斗は成立しなかった。

#### 4. 全學団交・追尾戦で、総長・學生部長を追いつけろ!

全學団交戦は、C三諸君が言うような「確約とかいう紙きれいに斗争へ一切をあずける」というものでは決してない。全學団交戦は、教養部・各学部を基盤とした大衆運動の力で、当局管理構造を学部レベルから壊り崩し、執行部たる総長・學生部長を孤立させ、全學的大衆的な包囲陣型をもって、彼らに斗争の矛先を集中させていくみんとする戦術である。

吉田寮自治会は、「在期粉碎!新自治寮獲得!」における、学生部長団交を要求して斗っている。さらに、当局の退寮恫喝に屈するこじかく「在期」以降も住升抜き、自主入寮選考を貫徹することによって、寮自治運動を繼續せんとしている。

全學の学友諸君!吉田寮自治会に連帯し、全學団交戦を各学部を斗い抜き、朝晨學生部長を大衆団交の場に引きずり出そ!「在寮期限、実質化攻撃の一入寮募集停止策動を粉碎せよ!寮自治会による自主入寮選考～新自治寮獲得に致る斗争を支援し、連帯する持続的な教養部・各学部自治運動を構築しよう!左、右全學自治運動の高揚を切り開け!